

第673回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2025年5月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

「実家 THE WORLD」

放送日：3月29日(土)正午

◇ その他

KBC テレビ 2024年下期の番組種別の公表報告

2025年5月19日(月)開催

九州朝日放送株式会社

## 第673回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025年5月19日(月) 15時30分～16時35分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

### 3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

副委員長	山根 久資
委員	副田 智幸
委員	小柳 美佳
委員	森 慎二
委員	サーズ 恵美子
委員	泗水 康信

欠席委員数 2名

委員長	上野 恵梨奈
委員	林田 真心子

### 放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森 君夫
取締役 報道制作局長	大迫 順平
執行役員 総合編成局長	柴田 高宏
報道制作局 コンテンツ戦略部長	山田 利宣
総合営業局 営業戦略部 (番組プロデューサー)	大野 純弘
報道制作局 コンテンツ戦略部 (番組ディレクター)	北島 純
番組審議会事務局長兼広報室長	吉岡 実
番組審議会事務局 (広報室)	松永 俊郎

#### 4. 議題

- (1) テレビ番組「実家 THE WORLD」  
放送日時：3月29日(土)正午
- (2) KBC テレビ 2024年度上期の番組種別の公表報告
- (3) 5月・6月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 4月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 明るく穏やかなバトズルさんが5年ぶりにモンゴルに里帰りする様子にほっこりした。バトさんとその家族の姿を密着取材することにより、親子の深い愛や兄弟愛を感じた。
- 等身大のモンゴルに触れることができた。何となく知った気になっていたモンゴルのことをより身近に感じることができた。モンゴルに行ってみたくなる素敵な番組だった。
- 首都ウランバートルやその周辺都市の状況、住宅事情、食文化などが紹介されていて、モンゴルの今を知ることができた。一般的な旅番組とは違う魅力があった。
- 5年ぶりの里帰りしたバトさんをご両親が涙の抱擁で迎え入れるシーンは感動した。異国で暮らす子と思う親の気持ちを想像して思わず涙した。
- バトさんをご両親の久しぶりの再会にも大げさな感情表現ではなく、静かに抱き合っただけで涙を流す様子がリアルな感動を呼んだ。会いたいと思う気持ちがどれほどだったのか想像した。
- バトさんが雪原で寝転がり「自由がやりたかった」と話したことは印象的だった。日本では「自由がしたい」とは言わず、モンゴルと日本の生活の違いをイメージすることができた。
- 福岡には多くの外国人が働いていて、そうした一人ひとりに故郷があり、それぞれ故郷や家族に対するいろんな思いをもって働いているのだと改めて実感することができた。
- モンゴル人は親日家の方も多く、これからも日本との人的交流が進んでいくことが期待されている。番組を通して両国の理解が深まれば、非常に有意義なことだと思った。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 取材対象者にバトさんが選ばれた経緯や理由が分からなかった。
- 「伝えたいこと」に対して問題の掘り下げ不足を感じた。日本での暮らしの中での困り事や戸惑いなどを掘り下げて取材、紹介してほしい。
- モンゴル愛が強いバトさんがなぜ日本で暮らすことを選んだのか説明がほしかった。
- 「日本が安全」とはどういう意味なのか、説明やバトさんのコメントがほしかった。
- タイトルからすれば、もう少し実家での滞在時間があっても良かったのではないかな。
- 「本当に外国人です」というテロップは差別的に受け止められる恐れがないか気になった。

- 「バトさんを1週間借りる」という表現は、人について使用する表現として適切なのかと疑問に感じた。
- モンゴルで映像は映像酔いした。草原でバトさんが発見したものがはっきり見えなかった。などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 今や外国人労働者の姿を見かけない日はない。身近にいながあまり知らない外国人の実家を見ればその人たちを知ることができると考え実家に訪問する企画を立案・取材した。
- 福岡で働く外国人で、里帰りを考えている人を探していたところ、バトさんを紹介された。日本語が上手で人柄も良く、日本と母国愛に満ちた方だったのでバトさんを取材した。
- 「親子の深い愛や兄弟愛を感じた」との評価は狙いどおりでありがたい。本作を通して、バトさん親子の姿から視聴者が親と自分との関係を考えるきっかけになればと思っていた。
- コンセプトを十分に伝えきれなかったことは反省点。「何を見せたいのか？」冒頭でしっかりと説明する必要があった。
- 日本で生活をする外国人が困ること、戸惑うことは必ずあると思うので、次作以降ではしっかりと深掘りしたい。
- バトさんは留学終了後に一旦モンゴルに戻ったが、日本での経験を活かしたいという理由から日本のスーパーマーケットに就職した。「日本が安全」という発言は、子育てなどで日本の方が安全・安心と言う意味。もう少し補足が必要だったかもしれない。
- 実家をもう少し中心に据えた方が良かったというご指摘について、取材を進めるなかでいろいろな要素が出てきたので、実家の場面は3分の1くらいになった。バトさんの暮らしぶりや働いている映像をご両親に見せても喜ばれたらと思う。
- 人を「借りる」との表現は適切なのかというご指摘はハッとさせられた。誤解のないよう気を付けたい。「本当に外国人です」というテロップも唐突感があったかもしれない。
- モンゴルでの映像が「映像酔いした」というご指摘は反省点。ご実家なのでできるだけ少人数で訪問しようと考え、普段はカメラ撮影しない2人で取材に当たった。
- 日本人に馴染みのない地域を訪ねると発見や驚きが多いと考えるが、本作には何よりも「人物」が大事だと思っている。母国と日本を愛する方との出会いが最重要だ。

などの説明をしました。